

# 赤ちゃん型ロボットを用いた認知症高齢者・介護士へのメンタルケア

## 概要

本研究では、ロボットとの触れ合いを通じた認知症高齢者(要介護者)や介護者のメンタルケアを目指し、人の赤ちゃんのミニマムデザインとして、赤ちゃん型ロボット「かまってひろちゃん」を企業と共同開発しています。それを用いた効果検証や長期実証実験を通して、インタラクティブドールセラピーの実現を目指します。

## 特徴

- 抱っこなどの働きかけに応じて、赤ちゃんの音声で笑う・泣くといった感情を表します。顔をなくしたことで、音声から表情やお孫さんの顔など、好きな存在を想像しながらかわるることができます。
- ひろちゃんをあやすという仕事を介護者が要介護者にお願いすることで、要介護者にとって生きがいを与えるとともに、あかちゃんをあやすことによる癒やし効果が期待できます。
- 認知症高齢者に使ってもらった結果、顔のある典型的な赤ちゃん型ロボットと比べても遜色なくひろちゃんをあやしてくれることがわかりました。また、ひろちゃんの声が介護者に対する癒やし効果を持っている可能性も示唆されました。

## 今後の展開

- 連携している社会福祉法人隆生福祉会の介護施設にて長期的な実証実験を実施することを計画しています。要介護者と介護者に対する効果を調査し、双方のメンタルケアを目指すインタラクティブドールセラピーを確立します。

## 対コロナへの関連

- 重症化の危険がある高齢者では触れ合いが特に難しくなっています。ひろちゃんは必要最低限の要素でデザインしたことで、安価なため、従来の1体のロボットを共有する形式ではなく、各自専用のロボットとしてケアを行うことができます。そのため、新型コロナ下でも介護施設へ導入しやすく、大規模な実験が可能です。プログラムの変更も容易であり、高齢者の方に好まれやすい反応や、ひろちゃんを好みやすい性格について検証を進める予定です。

